

同時進行型



仙台市立高砂小学校
渡邊 彩

実践テーマ

欲しいものを尋ねたり、要求したりして、電子黒板上で自分の好きなフルーツパフェを作る。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

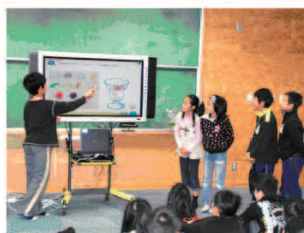
- 〈導入〉 フルーツの絵とネイティブの発音を自作資料で提示する。放送番組を視聴する。(学習課題への意欲喚起)
- 〈展開〉 ・実物投影機を用いて、アクティビティの方法をデモンストレーションする。
・電子黒板で英語ノートデジタル版を操作し、フルーツパフェを作る。
- 〈まとめ〉 放送番組を再度視聴する。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 英語であいさつをする。 自作プレゼン資料を使って、果物の言い方を練習する。(PC教材①) 絵カードを使って、果物を英語で言い表す練習をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自作PC教材 使用ソフトウェア： PowerPoint® (Microsoft Corporation)
展開	<ul style="list-style-type: none"> “What do you want?” “~ please.” の表現を練習する。 放送番組を視聴する (動画①)。 キーワードゲームをする。 フルーツパフェの作り方を知る (PC教材②)。 グループで店員役を決め、フルーツパフェを作る。 電子黒板を使って、全員でフルーツパフェを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> NHK放送番組 「えいごルーキー GABBY」 英語ノートデジタル版 (文部科学省)
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 放送番組を視聴する (動画②)。 ふり返しカードに記入する。 英語であいさつをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 放送番組



自作資料を使って、果物の言い方を練習



電子黒板を使い、全員でフルーツパフェを作る



放送番組を視聴

児童の反応・効果

- ・実物投影機で例示することによって、説明を視覚化し、児童への指示を徹底することができた。
- ・電子黒板を活用することで、電子黒板を使わない時より、テンポよく素早く資料を提示したり、切り替えることができ、その分アクティビティの時間が十分にとれ、また、集中して取り組むことで、児童のコミュニケーション力の素地を高めることができた。

活用のポイント

- ・番組視聴の際、あらかじめ見るポイントを与えることで、児童の興味・関心、集中力が高まる。
- ・果物を英語で言い表す練習は、自作資料と絵カードを併用しながら行うようにする。ねらいに応じてアナログとデジタルの良さを使い分けるとより効果的である。
- ・放送番組は見せる内容によって、視聴時間を制限する、音声をしぼる、2回繰り返して見せる等の工夫をすることで効果が高まる。